

# Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2018年5月14日発行 No.68

『どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の源である御父が、あなたがたに知恵と啓示との霊を与え、神を深く知ることができるようにし、心の目を開いてくださるように。』

(エフェソの信徒への手紙 第1章17~18節)

<六甲アイランドが生んだ奇跡!? 吉本梨乃さんを招いてヴァイオリンコンサートを開催!!>

麗らかな日差しに包まれた先週土曜日の午後、チャペルは一人の少女が奏でる演奏によって驚嘆と感動に包まれました!! 六甲アイランドで生まれ、3歳からヴァイオリンを始め、現在その才能を大きく開花させて国際的に活躍されている吉本梨乃さんをお招きしてコンサートが行われたのです!! 事の発端は、経済学部白砂先生が外部のイベントで彼女と知り合った…というものでした。梨乃さんが初めてチャペルに来られた時(今年の3月頃)はまだ中学生で、第一印象もメガネをかけた小さな女の子という感じでしたが、ケースを開いてヴァイオリンを取り出した瞬間から、チャペルの空気を一変させるような演奏が始まり、関係者全員が卒倒…。本番を迎えたこの日も、約1時間とコンサートの規模としては小さいものでしたが、ご来場頂いた一人ひとりの心を癒す素晴らしい演奏を届けて下さいました!! 本当に感謝すると同時に、これからのご活躍をキリスト教センター一同、心からお祈りしています!!(^^) /マタ来テネ~



休日でも盛況となったチャペル



まだあどけなさの残る梨乃さん



演奏が始まるとその音に会場が驚嘆

<学生の奉仕によって支えられる霊的営み…。八代師父の建学の精神「仕える」を具現化!!>

今年度創立50周年というメモリアルイヤーを迎えている神戸国際大学。そして、先週の火曜日は、更なるメモリアルとなるかもしれません!! なぜなら、この日の昼礼拝は、司式もサーバーも学生の力で執り行われたからです!! 事の発端は小さな行き違いだったのですが、いつもサーバーを担当してくれている蔭山君(経3年)が「司式をやってみます」と申し出てくれた事から、この日は偶然にも附属高校出身の男子学生2名が礼拝を担当してくれました!! 現在チャペルウィークで1年生に建学の精神等をお伝えしていますが、学院創立者八代斌助師父の「神を畏れ 人を恐れず 人に仕えよ」の言葉をこの年に堂々と実践してくれている学生の存在に、勇気付けられます!! このような働きが更に広まる事を願いつつ、サーバー絶賛募集中です!!



司式の蔭山君とサーバーの川畑君

## <先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

5月7日（月） テーマ：「ネパールと日本」

チェトリ・バビタ（経済学部3年）



私はネパールから来ました。私が日本に来た理由は、日本文化に強い関心があったからです。私はKIUの日本文化部に入り多くの経験や学びを積み重ねる事ができました。私は、日本文化の創造性に驚いています。便利さと豊かさを求め常に努力や工夫をしている。他の国でこんな姿勢はなかなか見る事ができません。将来、日本での就職を考えていますが、いつかネパールに戻り、学びをネパールの発展に貢献したいと思います。

5月8日（火） テーマ：「自分を磨く」

山口 宰（経済学部）

私は大学で働く傍ら社会福祉法人を経営している。かつて日本では、増え続ける高齢者に対応する為、大規模で収容型の施設が次々に作られた。そこで働く人に求められたのは、介護の能率・効率化で、画一的なマニュアルに従って仕事をすれば介護は誰でもできる仕事だった。しかし今は全く違う。高齢者一人ひとりの事をよく知り、相手の立場に立ち、その時々適切なケアを行う、ケアをする者の人間性が問われる仕事となった。そこで求められるのは、いかに自分を磨き、成長させるかである。今日の聖句にある「タラントン」は「神から与えられた賜物」という意味がある。大学での生活を通じて、ぜひその賜物を磨き上げてもらいたい。

5月9日（水） テーマ：「人口減少社会を生きる」

遠藤 竜馬（経済学部）

これから10年ほどで日本は人口が1億人を切ると言われ、これから急激な人口減少期を迎える。人口は増えるもの、経済は発展するものという右肩上がりの時代を生きてきた者としてなかなか想像し難い状況だが、避けられない現実として捉えておく必要があるように思う。ただ悪い事ばかりではない。限界と思われる都市部の人口過密は解消されるだろうし、土地や住宅の値段も下がってくるだろう。何より日本が日本の力だけで生きていけなくなった結果、外国人の力を借りる事で文化・伝統を再発見するなど新しい可能性が拓かれるかもしれない。神戸国際大学に連なる私たちも、これからの世界で求められる国際感覚を磨いていきたい。

5月10日（木） テーマ：「日本人は変わったか？」～世界で活躍する日本人の増加～ 山本 克典（副学長）

最近、MLBや五輪等で活躍する若い日本人選手の姿をよく見る。以前の日本人は「前評判が良くても本番では弱い」というのが定説だったが、緊張せずに自分の力を発揮できる所に大きな変化、特に体だけでなく精神面での変化（成長）を見る事ができる。私の専門である教育の観点から言えば、「同じ教育を全ての人に」という考えの下、一定の枠にはめるのが教育であるとされてきた時代から、一人ひとりの個性を伸ばす教育への変化が影響しているように思う。ただ、ここにも誰かに指示されないと行動できないという課題がある。皆さんはどうだろうか？

5月11日（金） テーマ：「物語としての人生」

遠藤 雅己（経済学部）

先日、学生時代によく集った喫茶店の前を通りかかると不意に心が動かされた。2Fの窓からプラタナスが見える小さな喫茶店、座る場所や一緒に集まる仲間もいつも同じだった。その中の一人から長い手紙が届いた。病に侵され、それが最期の挨拶だった。彼の文章に、懐かしいその喫茶店が出てきたが、驚いた事に自分と彼との感じ方が大きく違っていた。ショックだったが、よく考えると、その人の人生を全て追体験する事など誰もできない。皆、それぞれが与えられた接点に意味を見出し、それを物語として受け止めて行くのだ。聖書も同じだ。壮大な物語の集合体である聖書、そこに人生の意味が確かに示されている。（文責：野間 光顕）